

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和2年度 第1回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和2年12月16日(水) 午後1時～午後3時
開催場所		豊島区役所 教育委員会室(本庁舎8階)
議 題		(1) 教育に関する事務の点検・評価の実施について (2) 令和元年度評価実施事業 取り組み状況報告 (3) 評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 「教員の研修」 (4) その他
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	細谷 美明 木村 文香 岩井 由美子(敬称略)
	その他	教育長、教育部長、学務課長、学校施設課長、指導課長、教育センター長
	事務局	庶務課長

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
細谷委員長	<p>【開会】 委員自己紹介 事務局紹介 委嘱状交付 教育長挨拶 委員長選出 委員長職務代理者の指名</p> <p>それでは、これより議事に入らせていただきます。議事の第1、教育に関する事務の点検・評価の実施について、説明をお願いします。</p>
副島庶務課長	<p>【資料1「教育に関する事務の点検・評価の実施について」の説明】</p>
細谷委員長	<p>どうもありがとうございます。ただいまの説明のあった実施方法・手順について、何かご質問、ご意見のある委員はいらっしゃいますか。よろしいですか。それでは、案のとおり実施することと決定します。次に、議事の第2、「令和元年度教育に関する事務の点検・評価後の取組状況について」、各課より説明をお願いします。</p> <p>質疑は、すべての報告のあとに行います。</p> <p>なお、「子どもスキップ・学童クラブ（放課後児童健全）事業」ですが、類似の事業を今年度も審議するため、1月7日に開催予定の第3回目の委員会のなかで報告をお願いしたいと思います。</p>
副島庶務課長 佐藤指導課長 田邊学務課長	<p>【資料2「令和元年度評価実施事業 取り組み状況報告」の説明】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICT機器整備（学習及び校務支援システム）の推進と活用状況 2. いじめの防止対策の推進 3. 小学校移動教室等実施／中学校移動教室等実施 4. 子どもスキップ・学童クラブ（放課後児童健全育成）事業 <p>※第3回にて報告</p>
宮本学校施設課長 佐藤指導課長	<p>5. 学校施設環境改善整備補助金事業</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。ただいま各課長から昨年度の評価後の取り組み状況について報告がありました。委員の皆様から、ご質問やご意見がありましたらお願いしたいと思います。</p>
木村委員	<p>「いじめ防止対策」について伺います。先ほどのご説明で、小中学校含めて子ども一人ひとり丁寧に見ていらっしゃるということが良く理解できました。そこで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アンケートに「子どもたち自身が学級をどうとらえているのか」という設問が含まれているのか。 2. 学級がシステムとしてうまく機能しているのかをどのように把握しているのか。 <p>以上、2点についてお伺いしたいと思います。</p>

佐藤指導課長	<p>昨年度まで、図書文化社の心理検査「Hyper-Q U」を使用していたのですが、今年度から東京書籍の「i-check」に変えています。目的としていることは同じで、「子ども一人ひとりの所属意識がどれだけ高いか」、裏返してみると教員の側からは「子どもたちが所属感を持って集団に関わっているか」という見方になります。子どもを個々に見ていくと同時に、学級がどのような診断になっているのかについても見ているところです。</p> <p>検査は年に2回、5月期と11月期に行っております。年間で見えていくと同時に、この時期に行い、子どもたちの満足度を上げていくことで学級経営の一助として活用してもらうため、設問肢もこうしたことが把握できるように設定しているところです。</p>
細谷委員長	<p>ほかにございますか？</p> <p>昨年、私は委員としていろいろな意見を挙げさせていただいたのですが、非常に良く対応をいただいているなど感じています。コロナウイルス対応を行いながら、基本方針がしっかりしているからだと思いますが、よくご対応をいただいているというのが私からの感想です。</p> <p>(休憩)</p>
細谷委員長	<p>それでは、次の議題に入りたいと思います。</p> <p>議案の3、これは評価対象事業になりますので、佐藤課長の方からご説明をよろしくお願いいたします。</p>
佐藤指導課長	<p>【資料3：事業分析シート（教員の研修）】 及び関連資料について説明</p>
細谷委員長	<p>佐藤課長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、これから各委員からご質問・ご意見をいただくわけですが、先ほど事務局から説明があったように「効率性」「有効性」という観点を意識しながら審議をお願いしたいと思います。</p>
木村委員	<p>「効率性」というところでいうと、ご説明のあった「オンライン研修」は効率性が高かったのだろうと推察しました。</p> <p>今年度の特徴として、授業の仕方について大きな転換をせざるを得なかったという点があると思います。そして「予期していない」「他の学校、先生はどうしているのか知りたい」という場面は、今後も起こり得ると思います。そこで、こうした咄嗟のオーダーメイドが必要な場合の対応について、どのようにお考えでしょうか。</p>
佐藤指導課長	<p>委員のおっしゃる通り、咄嗟のオーダーメイド対応の必要性を認識しているところです。例えば、タブレット導入の際に、使い方はマニュアル整備で一定のレベルにまでは持っていったのですが、タブレットが持つ機能が非常に多岐にわたるために、使いながら、走りながら、様々な活用方法がわかってきているという状況です。</p> <p>話は少しそれますが、オンライン授業についてはマイナス面も見えてきています。教員が集合してこそ磨ける力もあります。こうした状況下では、例えば、学校のOJTのなかで「ちょこっと研修」を行うシステムを作ったり、教育委員会の中にも「ちょこっと相談」できるようなシステムを作っていくようなオーダーメイドの対応を目指していきたいと考えていますし、その必要性を感じています。</p>

	<p>「ちょこっと相談」をする中で、実は子どもたちとのかかわりであるとか、校務分掌をどうやって展開していくか等、教員たちの指導の躰きを発見できたりしています。</p> <p>1年次から4年次までを継続的にやっていくことの裏側の良さとして、この研修を若い指導主事が担当していますので、先生方と少し距離が近いために「学校では相談できないけれど、指導主事には相談できる」ような体制を作っていくと、オーダーメイドにはなっていないと思います。先生方の心のケアと指導力を車の両輪のように同時に進めていかなければいけないと考えております。</p>
木村委員	<p>ありがとうございます。今のお話を聞いて、良い形でまわっていくのだろうなと思いました。今年度、違うツールを使ったことで、「どれだけ躰いたか」ということが、成果を見るひとつのポイントになるのかなと考えています。評価をしていくときに、現場の先生方は「私はこれだけ躰いてしまった」という自己評価になってしまうと思うので、むしろ「躰けた」という部分を「気づきを得た」とポジティブ捉えて評価していただくことで、むしろ「良いことだったのだ」と前向きに進めるのではないかと感じました。</p>
細谷委員長	<p>ありがとうございます。何かほかにいかがでしょうか。</p> <p>では、私からお聞きしたいのですが、先ほど「オンラインのマイナス面が見えてきている」というご説明がありました。年前から「教員の働き方改革」ということ言われていますが、先生方が通所研修への出張、学校に帰って報告書を作成する、こうした負担が大きいと数年前から言われてきています。今後、オンライン研修を増やしていくという考えはあるのでしょうか。その考え方も含めてご説明をいただきたいと思いません。</p>
佐藤指導課長	<p>委員長ご指摘の点ですが、A3版資料の「令和3年度に向けて」で「教員研修をどう捉えていくか」という点についてお示しさせていただいています。先ほど「オーダーメイド研修」と申し上げたのですが、今後はオンラインによる研修比率を3割くらいに増やしていければと考えています。これもオンラインに向くもの、向かないものがありますので、数値目標とするのではなく、通所研修と指導主事による訪問とミックスして対応していく必要があると考えています。</p> <p>現場からは、オンライン研修を行ったことによる評価が高くなっています。コロナ禍のなか、思い切ってオンライン研修に切り替えたことで、教材を準備する時間に使える、子どもに向き合う時間に使えるという点を高く評価してもらっています。コロナ禍だからこそ得られた成果ですので、しっかりと継続して行きたいと考えています。</p>
細谷委員長	<p>なぜこのような質問をしたかという、世の中がオンライン重視で、国自体も「ギガスクール構想」を打ち出したことで、学校教育自体がオンラインの方向に持っていかれるような風潮にあるのを非常に危惧しています。今年がオンライン元年だと思うのですが、先ほど「3割」というご説明がありましたが、今後の試行錯誤によって、この割合がどうなのか、また、組み合わせることでより効果があるのだという方向性が出るかも知れないと思います。豊島区はICTの設備が充実し始めていますので、こうしたデータを積み重ねていただけると有り難いと思います。</p> <p>それから、私自身は、オンラインで教員の資質向上が成し得るのかと</p>

<p>佐藤指導課長</p>	<p>ということには少し懐疑的であるのですが、先ほどご説明のあった受講記録、これは素晴らしいと思いました。研修報告書に「研修をどう活かしていくのか」を記載する様式になっているのは良いと思います。管理職はこの報告書をどう活かしているのですか？</p> <p>管理職は、自校の自己申告等での一人一人の教員の進捗管理のほか、指導課では、研修報告書を預かります。指導主事は、研修報告書を学校訪問の中で反映されているのか観察させていただくということに活用しています。</p>
<p>細谷委員長</p>	<p>自己申告などにあたって、校長は年に最低3回は教員の授業を見ることとなります。1回目に授業を見て指摘したことが、2回目以降にどうなったのか見ていくわけですが、その間にどういう研修を受け、足りない部分を補ったのかも見て行きます。それをポートフォリオにして、個人ごとに経過観察をして最終的に評価につなげていくわけです。こうして、ベテランは「痛いところを突かれた」、新人は「そういう勉強が必要ですね」と気付いて、教員が伸びて行きます。継続的に研修に活かしていくことで、本人のやる気につなげていくことができますので、「指導主事が学校に行く」とご説明がありましたが、教育委員会が積極的に関わっていくことについては大賛成です。ぜひ続けていただきたいですし、その成果を1年後に報告いただきたいと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>なければ、もう1点。教員の病休のお話ですが、小学校は若手が多く入って来ているなか、豊島区は病休がゼロだということ、これは誇るべきことだと思います。おそらく先ほど報告いただいたようなことを行っているからこそその成果だと思いますし、これは本当に高く評価したいと思います。</p> <p>全国の校長、特に小学校の校長は悩んでいると思うのですが、小学校の担任が倒れた場合には、副校長が、あるいは校長が直接担任を行うケースもあると思うのです。コロナ対応や働き方改革など大変だとは思いますが、教育委員会が学校現場を支えてあげて欲しいと思います。</p> <p>ほかに、ご質問、ご意見等ありますか。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>岩井委員は昨年度から仰高小学校で PTA 会長をされておられますので、仰高小学校のプログラミング教育に携わっていただいております。仰高小学校には区内の先頭を走る勢いで取組を進めていただいております。現在のタブレットの活用状況などを、お子さんの状況も含めて教えていただければと思います。</p>
<p>岩井委員</p>	<p>はい。ご紹介いただきましたように、仰高小学校では、昨年度からプログラミング教育に取り組みまして、高い評価をいただいております。</p> <p>タブレット端末の一斉配布にあたっては、6月頃には今年度中に配布予定とお知らせがあったのですが、2学期になっていきなり配られることになって、親が一番びっくりしたというような状況です。親が心配するより先に、子どもは体の一部のようにして、娘も常にタブレットを抱きかかえているような状況で、時間制限のなかで、常にタブレットを活用させていただいております。</p> <p>PTA連合会の行事が軒並み中止になって、子ども達にお金を使ってあげることができなかったので、今回のタブレット導入に合わせてタ</p>

レットケースを全児童分購入し、タブレットと同時に配布しております。学校との連携が取れたことで他の保護者からも好評をいただいております。また、仰高小学校の秋の行事として展覧会が開かれたのですが、ここでもタブレットが活用されています。展覧会は、絵を描いたり、立体を作ったりしたものが並んでいるというイメージだと思います。今回も、こうしたものが廊下や教室、体育館などに飾られてはいたのですが、それとは別に「これは新しい」と思ったのですが、児童それぞれが自分のタブレットで動画を作って、6年生が舞台の上に発泡スチロールをくりぬいて作った屏風にプロジェクトマッピングで投影して、素敵な音楽を流すという試みを行うことができました。

展覧会は金曜日・土曜日に行ったのですが、密になることを避けるため、先生のご配慮で、金曜日の夜に仕事終わりに来たり、土日にゆっくり見たりということもできました。

今回のタブレットの導入で、一気に学校中の様子、視界が大きく広がったように感じています。

先日は持久走大会が開かれました。例年は地蔵通り商店街で行うのですが、今年は残念ながら、校庭で行うことになりました。そこで、校長先生が校庭を「地蔵通り」に見立て、地蔵通り商店街の大きなアーチを作って、商店街のお店の写真を撮ってパネルを並べたりして、子どもたちの心を盛り上げて、子どもたち全員が完走するという素晴らしいものを見せていただきました。

校長、副校長先生のおかげで、コロナウイルスのために「できない」というのではなく、「どんなことができるか」という視点でいろいろなことに着手していただきました。展覧会もそうだったのですが、持久走の様子をオンラインで全クラスの分を配信していただきました。現場での応援は「各家庭1名まで」ということだったのですが、録画した持久走大会の様子を配信していただいたことで、子どもたちが頑張っている姿を、各ご家庭でお鍋を囲みながら見ることもできたと聞いています。

うちも6年生ですので、もうすぐ卒業を迎えるのですが、寂しいとか、残念だなという気持ちは全くなくて、特別な形で1年間を過ごさせてもらったなと思います。私は地域でお習字の教室をやっておりまして、低学年のお子さんがたくさん通ってくださっています。1年生は入った時からこういう状況なので、通学させるのに「不安でいっぱいだ」という声をたくさん受けていたのですが、「いい学校に入れてもらった」と、学年を超えて保護者から声が出ていることを、この場を借りてご報告させていただきます。本当にありがとうございます。

細谷委員長

今のお話で、区が方針を立てて、学校は期待されている以上によくやっているのだ、ということがよくわかりました。ありがとうございました。

今のお話でもありましたように、今の子どもは、コンピューター・リテラシーに長け、自由に扱っていて、むしろ教員のほうが追いついていけないという状況です。昨年発表されましたけれど、2018年度の調査では、日本は先進国の中で学校のICT環境が最低だということがわかっています。ですから、教員自体のコンピューター・リテラシーが低いのは当然でもあるわけです。

今後、豊島区がこの分野の先達として進めていくことに期待をしたいと思います。これは注文になってしまうかもしれませんが、社会科や理科の研修の中に、デジタル教材を使った授業の方法や模範的な授業の方法などを意識的に入れていってもらいたいと思います。ベテランの先生は、授業方法や子どもの見方、教材の活用の方法はよく知っているの

<p>木村委員</p>	<p>すが、「ICT環境をどう使うか」ということについては、ぜんぜん答えられないのです。一方で若手は、「ICTはなんでもござれ」なのですが、何をどう使って授業をすればいいのかわからない。こういった状況をうまく組み合わせて、教科の研修に取り入れていけば、現場と現場の先生にとっては、わかりやすい良い研修になるのではないかと思います。それを通所研修だけでなく、校内研修のなかでひとつの例として示してあげると、より意義があるのではないかと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>ICT関連が続いた後なのですが、キャリア教育研修について質問させてください。</p> <p>もしかすると、大学の教員としての関心かもしれないのですが、年齢が上がっていくと、「将来なりたいものがない」「好きなことがない」という学生が多いと感じています。以前、私は心理学科にいましたので、「カウンセラーになりたい」など、学ぶものが明確なところで学んでいる学生は違うのかもしれませんが、高校生以上になった時には、なりたいものが無くても、「なりたい人間像」というものは持っていたほうが良いと思います。実は先ほどのご説明を聞いて、キャリア教育研修は「確かな学力の育成」というカテゴリの研修に入るのだという驚きがありました。「キャリア教育」は不登校対応にもつながっていくと思いますので、先生方の認識をキャリア教育研修でどう育てていくのか、どのような内容がキャリア教育研修で行われていくのか教えていただければと思います。</p>
<p>佐藤指導課長</p>	<p>委員ご指摘の通り、キャリア教育研修は充実していかなければならない研修の一つだと考えております。</p> <p>さかのぼっていくと、中学校では、進学を重点とした「指導」に偏りがちになったり、小学校では、先生がおっしゃったように、夢に焦点化しすぎて「なりたいもの探し」に重点がおかれていました。自己肯定感や自尊感情を育み、今の子どもたちの将来への夢や希望を見据えた姿が、あやふやだったりしても、その状況は、認めていかなければいけない事実だと考えています。だからこそ、ネガティブな現状も踏まえたくうえで、キャリア教育研修をしっかりとやっていかななくてはならないと考えています。</p> <p>キャリアパスポートをしっかりと作らせて、今の自分も将来の自分も認識しつつ、自分の姿を子ども自身が俯瞰できるようにしたいということで、キャリアパスポートを今年から全小中学校で導入しました。スタートしたばかりで、現在、中身を積み上げているような状況ですが、子ども自身が自分の将来設計を俯瞰的に見られるような力をつけたいということ考えると、先生がおっしゃったように、「確かな学力の育成」というよりも、教育ビジョンの「一人一人を大切に教育の推進」のようなカテゴリに入れていかなければいけないとも考えております。</p> <p>今年度は、キャリア教育研修については、指導課が一方的に話をするのではなく、NPO の設立に関わったような外部の方に来ていただいて、先生方を対象に子どもにはいろいろな将来像があるのだ、ということ伝えてもらうような研修を行っているところです。</p> <p>また、来年度は不登校をしっかりと踏まえて研修を行っていかないと認識しています。不登校に対する考え方が、オンラインによって、大きく変わっていくと感じています。</p> <p>今までは、学校という建物にちょっと距離感を感じていて、「学校と</p>

	<p>いう建物には行けない。でも学びたい。」という、学ぶ場所探しをしていた事実もあったと思います。本区には教育センターに適応指導教室がありますが、適応指導教室ですら違和感を覚えるようなお子さんが学ぶ機会をタブレットによって確保しましたので、教員の認識や捉え方を変えて行かないと、子ども一人ひとりを大切にしたい指導にはなっていないと考えています。</p> <p>キャリア形成と不登校は「切っても切れない」関係であると認識しているところですが、まずはキャリアパスポートの活用を最優先に進めたというところ です。</p>
木村委員	<p>ありがとうございます。</p>
細谷委員長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p> <p>今のお話を聞きしても、小中連携を強く意識しているのですね。残念なのは、小学校と中学校でキャリア教育に関する考え方が全く違うということです。小学校でキャリア教育を行ったとしても、それが中学校へ情報として上がってこない、ということがあるような気がしています。</p> <p>実は、この「パスポート」は、40年も前ですが、私が教員時代に教育委員会から提案されて作ったことがあります。それを小学校から中学校までの9年間保存しておくようなシステムを作ったらどうか検討しました。結局、小学校側の認識がなく頓挫して、中学校の3年間だけでも、ということになったのですが。これは、ぜひ実現させて欲しいですし、ICTを活用していくのも有効ではないかと思 います。</p> <p>ほかに無いようでしたら、まとめに入りたいと思います。</p> <p>本日の審議は「教員の研修」に焦点を絞って行いました。かなり研修体系を含めて見直しを図られたこと、そして「コロナ」という、以前には全く予期しなかった事態が発生しているなか、計画を弾力的に使って、基になっている体系は崩さずに始めているということで、効率性・有効性という視点が、本日の説明の中にも入っていたと思います。</p> <p>最後のキャリア教育についても、小中連携という系統性や、外部の人を交えることで「社会に開かれた教育課程」的な要素もありました。おそらくこれから大きな課題となるであろう「不登校対応」にも、キャリア教育の視点を入れていくという説明がありました。</p> <p>今日は、委員、事務局それぞれから、事業の効率性・有効性の点から様々な示唆に富むお話が聞けたと思います。事務局の説明にもありました通り、評価は、全体を纏めて最終的に行うということになっていますので、有効性・効率性の観点から、自分なりの評価・見解をまとめておいていただき、最後に披露していただければと思います。</p> <p>それでは、これで本日の審議を終了いたします。</p> <p>事務局から連絡事項があれば、庶務課長お願いいたします。</p>
副島庶務課長	<p>それでは、次回の日程ですが、次回は12月23日(水)9時30分より開催させていただきますので、よろしくお 願いいたします。</p>
細谷委員長	<p>以上を持ちまして、第1回教育に関する事務の点検・評価委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">— 閉 会 —</p>

提出された資料等	<p>【資料1-1】教育に関する事務の点検・評価の実施について</p> <p>【資料1 別紙1】事業分析シート</p> <p>【資料1 別紙2】評価票(様式)</p> <p>【資料2】令和元年度評価実施事業 取り組み状況報告</p> <p>【資料3】令和2年度教育の事務に関する点検・事業分析シート「教員研修」</p> <p>【説明資料】</p> <ul style="list-style-type: none">・「教員の研修(研修体系及び研修内容の改善)」について・令和2年度 豊島区立幼稚園 小・中学校 研修事業体系・令和2年度豊島区学校リーダー育成研修の構成について <p>【参考資料1】教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱</p> <p>【参考資料2】教育に関する事務の点検・評価実施要綱</p> <p>【参考資料3】点検評価別添資料</p>
----------	--